

< 修 士 論 文 >

高校生のプログラミング関連職への
就業意欲の規定要因に関する研究
(要 旨)

滋 賀 大 学 大 学 院
デ ー タ サ イ エ ン ス 研 究 科
デ ー タ サ イ エ ン ス 専 攻

修了年度：2022 年度

学籍番号：6021119

氏 名：竹内 大瑛

指導教員：伊達 平和

提出年月日：2023 年 1 月 11 日

近年、目指すべき社会の姿として **Society5.0(創造社会)**が提唱されていることなどに象徴されるように、AIをはじめとした先進技術が様々な業界に導入・活用されている。一方で、IoTやAIの導入について日本は先進諸国に対して遅れを取っている現状である。2018年現在の日本のIoT・AIの導入率は39%にとどまっており、これは先進諸国よりも低い値となっている。このような日本における先進技術導入の遅れの要因の一つとして指摘されているのが、IT人材の不足である。IT人材は量と質両面での不足が指摘されており、例えば日本国内のIT人材は2030年に最大で約79万人不足するとの試算がなされている。

IT人材不足の問題を打破するため、教育現場では近年、学習指導要領の改訂による小中高のプログラミング教育の必修化をはじめ、情報教育推進の取り組みがなされている。このような取り組みによって、若い世代がIT人材としての基礎教養を身につけることによるIT人材不足の質的な改善が期待される。

一方で、IT人材不足の量的な改善を図るためには、どのような学生がIT関連職を志向するのかについて検討することも必要である。しかしながら、将来の職業選択について、特にIT関連職を志向する規定要因に着目した研究は未だ乏しい。IT人材が該当すると考えられる技術者は専門職に含まれる形で職業選択の規定要因が検討されているが、IT人材を必要とする業界が拡大していることに加え働き方が従来よりも多様化していることから、IT関連職を志向する規定要因は従来から変化している可能性がある。すなわち、IT人材育成の重要性が高まっている現状において、IT関連職への就業意欲の規定要因を従来研究対象にされてきた専門職よりも的を絞って検討する必要がある。

以上を踏まえ、本研究では高校生の親子ペアデータを用いて、IT関連職、特にプログラミング関連職への就業意欲の規定要因を検討する。プログラミング関連職を研究対象にする理由としては、プログラミングスキルがIT関連職として働く上で必要となる代表的なスキルであり、プログラミング関連職であることがIT人材の働き方が多様化した現代においてIT関連職であることを担保する重要な指標であると考えられるためである。

日本において職業選択の規定要因をプログラミング関連職に焦点を当てて検討した研究はその重要性に反してなされていないものの、プログラミング関連職は従来技術者として専門職に含まれる形で研究され、特に親の影響を中心に検討されてきた。子どもの職業選択に対する親の職業的影響の低下傾向が報告されていることや専門職に限らず職業一般において親の職業期待が子どもの職業選択と関連することが指摘されていることを踏まえ、本研究では親のプログラミング関連職就業期待と子どものプログラミング関連職就業意欲に焦点を当てて分析を行った。なお、親の職業期待は親の職業のみに規定される意識ではないと考えられるため、分析①で親のプログラミング関連職就業期待の規定要因を検討し、分析②で子どものプログラミング関連職就業意欲の規定要因を検討した。

分析①では、親のプログラミング関連職就業期待を従属変数としたロジスティック回帰分析を性別ごとに行った。まず、全体的な傾向としては親しい知り合い・親族にIT関連職

として働く人がいる場合、就業期待と正の関連を持っていた。また、女子よりも男子に就業期待がされやすい傾向が見られた。男子のみ地域規模によって親の就業期待との異なる関連が見られたことに加え、同居家族に IT 関連職として働く人がいることが就業期待と正の関連を持ち、継承期待の傾向が確認された。一方、女子のみ世帯年収と就業期待との正の関連が見られた。

分析②では、親のプログラミング関連職就業期待投入前と投入後の 2 つのモデルについて、子どものプログラミング関連職就業意欲を従属変数としたロジスティック回帰分析を性別ごとに行った。まず、全体的に女子よりも男子の方が就業意欲を持ちやすい傾向が見られた。また、親の就業期待は子どもの就業意欲と正の関連を持つことが確認された。さらに、親しい知り合い・親族に IT 関連職として働く人がいることは親のプログラミング関連職就業期待を媒介して子どものプログラミング関連職就業意欲と関連することが示唆された。男女ともに同居家族が IT 関連職として働いていることが子どもの就業意欲と有意な関連を持っていたが、継承志向の傾向は女子のみに確認された。

これらの結果について考察すると、親のプログラミング関連職就業期待が子どものプログラミング関連職就業意欲と強く関連することが明らかになった。また、親の継承期待が男子のみに見られたことや、世帯年収と親の就業期待の関連及び子どもの継承志向の傾向が女子のみに見られたことから、性別ごとの検討を行う必要性が確認された。さらに、親しい知り合い・親族が IT 関連職として働いていることが親のプログラミング関連職就業期待を媒介して子どものプログラミング関連職就業意欲と関連することから、親が IT 関連職の人と接触機会を持つことが子どものプログラミング関連職就業意欲を間接的に促進することが示唆された。